第２学年 生活科（災害安全）　　　　　　　 　　　　　　 場所　２年１組教室

外手の町ぼうえいたい！

指導者　玉川　真希子

**１　単元の目標**

　・自然災害に対する適切な行動や危険を回避する行動ができる。

　・地域に愛着をもち、集団や社会の一員として安全で適切な行動ができる。

**２　新学習指導要領との関連**

　　資質・能力の三つの柱としての目標

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能の基礎 | 思考力・判断力・表現力等の基礎 | 学びに向かう力、人間性等 |
| ・家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる。  ・自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる。  ・身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる。 | ・家庭における家族のことや自分のできることなどについて考える。  ・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える。  ・公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりする。 | ・自分の役割を積極的に果たそうとする。  ・地域に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。  ・公共物や公共施設を大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。 |

**３　単元について**

児童はこれまで、様々な機会に災害安全について学習してきた。毎月行われる避難訓練では「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を瞬時に見付け、身を守る姿勢をとることを徹底して指導してきた。また、生活科や学級活動の時間には、校内で地震が起きたときの身の守り方について具体的な状況を想定し、危険を予測し危険を回避するする行動を考えてきた。

しかし、地震が起こりうる可能性は、児童が校内で過ごしているときよりも、校外で過ごしているときの方が圧倒的に多い。そこで、本単元では、児童が校外にいるときに地震が起きたことを想定し、様々な場所での危険を予測し、よりリスクの低い危険回避の行動をとることができる力を身に付けさせたい。

**４　安全教育の視点に迫るための手だて**

・危険な状況をイラストや写真で提示し、児童が具体的な危険回避の方法を考えられるようにする。

　・時系列で状況を提示することで、次に起こりうる危険を予測し、回避する方法を考えられるようにする。

　・家庭との連携を図ることで、より日常的に危険を予測し、自分ができることを考えられるようにする。

**５　指導計画（８時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ○主な学習活動 | ◎指導上の留意点　■評価  ☆安全教育の視点に立った留意点 |
| １ | 〇家庭の中で身の回りには、どんな危険があるか考える。 | ◎イラストを使い日常生活を想起させる。  ■安全に気を付けた生活について考えている。 |
| ２ | 〇家にいるときに緊急地震速報がなったらどうするか考える。 | ☆緊急地震速報の意味をおさえる。  ■家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。 |
| ３ | 〇公園や児童館の中にいるときに地震が起こったらどうするか考える。 | ☆写真を使い日常生活を想起させる。  ■公共施設を大切にし、安全に気を付けて正しく利用する方法を考えている。 |
| ４ | 〇外にいるときや乗り物に乗っているときに地震が起こったらどうするか考える。 | ☆大人の指示に従って行動することの大切さを押さえる。  ■公共物を大切にし、安全に気を付けて正しく利用する方法を考えている。 |
| ５ | 〇川のそばにいるときに地震が起こったらどうするか考える。 | ◎写真を用いて地域の特徴を捉える。  ■自分たちが住んでいる地域の特徴を捉え、安全な行動について考えている。 |
| ６ | 〇地震への備えを考える。 | ☆家族の一員であることを意識させる。  ■家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。 |
| ７ | 〇非常時持ち出し袋の中身を考える。 | ◎具体物を用いて、イメージできるようにする。  ■家族の一員として、果たすべき役割があることを理解している。 |
| ８  （本時） | 〇避難所での過ごし方を考える。 | ◎体育館の写真を見ながら、具体的にイメージできるようにする。  ☆地域の一員であることを意識させる。  ■みんなで使う物やそれらを支えている人々がいることを理解している。 |

**６　本時の展開 （８／８）**

**（１）ねらい**

地域の避難所で生活することを想定し、災害時における地域の人々との関わりについて考える。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動  ・予想される児童の反応 | ◎教科の留意点　■評価（評価方法）  ☆安全教育の視点に立った留意点 |
| ○地震が起きたときのことを振り返り、普段の生活と変わってしまうことを考える。  ・家の中の本棚が倒れてごちゃごちゃになる。  ・水が使えなくなる。  　・電気が止まる。  ○地震の後、家に住めなくなったときに避難所で生活することを知る。  『ひなんじょ』でのすごし方を考えよう。  ○学校が避難所になることを知り、避難所がどのような場所になっているのかを考える。  　・たくさんの家族が生活する場所だ。  　・段ボールで部屋が分けられている。  　・じゅうたんの代わりに毛布が使われている。  　・食べ物や飲み物が配られる。  ○避難所で自分でもできるお手伝いを考える。  　・食事の時には、お皿運びや片付けができる。  　・学校の掃除の時と同じようにゴミ拾いができる。  　・小さい子が困っていたら助けてあげる。  ○避難所で生活することになったときの過ごし方についてまとめる。  　・みんなで使う物や食べ物や水を大切にする。  ・みんなが気持ちよく過ごせるように工夫する。  　・自分ができるお手伝いをする。 | ☆地震が起きてからの行動について、時間を追って確認し、避難をするときのことを考えられるようにする。  ◎町の様子を写真やイラストで提示し、具体的な状況が分かるようにする。  ☆９月に実施した「かぞくの約束カード」を使い、自分の家族はどこに避難するのかを確認する。  ☆実際の避難所の写真を見せ、児童が避難所はどのような場所なのかを想起できるようにする。  ◎避難所は、地域を支える人々と関わって生活することを理解できるようにする。  ■自分ができるお手伝いについて考えることができる。【思・判・表】（発言・ワークシート）  ■避難所では、地域の人々と関わり合って過ごしていくことに気付いている。【学び】（発言・ワークシート） |